

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	十亀 琢磨	担当者名	井手 正典
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『生徒指導対策委員会』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

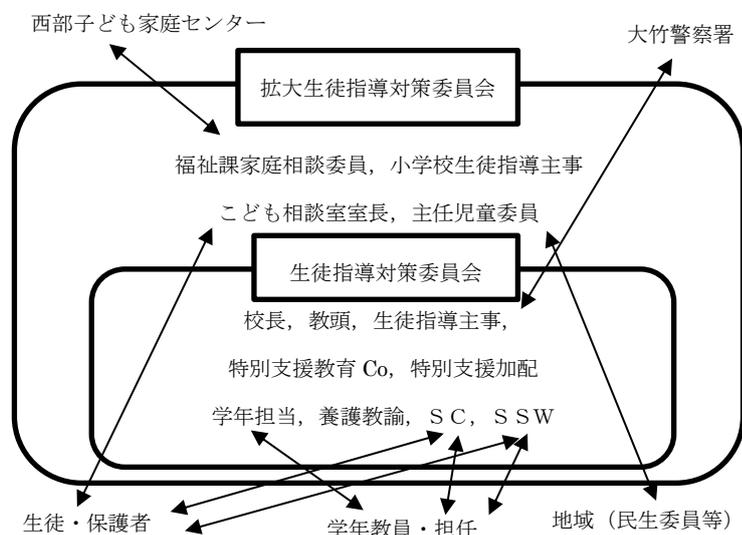
夢や志を持ち，粘り強く努力をする生徒を育成するために，「自らへの理解と自信」，「チャレンジ精神」といった資質・能力を育てる。

取組のねらい

生徒の自立に向けた歩みを支えるため，地域とともにある学校づくりなどを通じて，家庭・地域の教育力を充実させ，地域ぐるみで生徒の健全育成を推進する。

取組の具体的内容

週1回の生徒指導対策委員会と月1回の拡大生徒指導対策委員会等で，関係機関等と連携を図りながら，生徒指導上の諸問題等の未然防止や解決に向けて協議を進めることで，それぞれの生徒に対する具体的な方策を共通認識して，指導の徹底を図る。また，特別支援教育Coとの連携を密にし，生徒指導と特別支援教育の両方の視点で，指導の充実を図る。



取組の創意工夫

- ・月に1回関係機関の職員の方に参加していただくことで，更に他の関係機関との連携が図りやすくなる。
- ・小中連携やSSWとの連携により，小学校の時から本人の様子や家庭環境などの不登校生徒の情報を共有することで，組織的に対応する。
- ・学校に来ることができない生徒に対して，こども相談室と連携を図り，居場所づくりをする。
- ・こども相談室や福祉課と繋がることで，卒業後の生徒たちの支援を充実させる。

取組の成果と課題

福祉課が関わった生徒12名（そのうち家庭センター連携した生徒5名），SSWが校外で関わった生徒10名（小学校時から関わっている生徒6名），SCが関わった生徒11名（保護者を除く），こども相談室に通室した生徒6名（学校に復帰した生徒2名），主任児童委員から具体的な情報の提供を受けた生徒3名，小学校の生徒指導主事から兄弟の情報の提供を受けた生徒8名と毎月多くの情報を共有することで，それぞれの生徒に対して教員だけの取組以上のことができた。特に不登校傾向の生徒たちや家庭的にしんどい生徒たちへの支援ができた。